

江戸の街「両国」。



新社屋記念企画

# 歌川広重 浮世絵展

浮世絵

この度、新本社ビル内に、製品展示スペース「見本室ギャラリー」を開設します。この展示スペースは、三菱製紙の製品をより身近に感じていただくことを目的に開設いたします。

今回、第一弾の企画として、『新社屋記念企画：歌川広重 浮世絵展』を開催いたします。ゴッホやモネなどに影響を与えた歌川広重は、当時より「名所江戸百景」など、数々の名作を残し、両国界隈の作品も描いております。その中でも著名な「東海道五十三次」をモチーフとし、全55作品を三菱製紙が提供する製品にて印刷をしました。

一般的な印刷用紙であるアート紙やコート紙、また、インクジェット用紙、不織布など、各製品の風合いをお楽しみください。

是非多くの方にお越しくださいますようお願い申し上げます。

- ◆場 所 三菱製紙本社11F 両国シティコア(休館日：土・日・祝日)入館：無料
- ◆開催期間 7月17日(火)～8月末

名所江戸百景：両国橋大江ばた



## 歌川広重

歌川広重は、寛政9年(1797年) - 安政5年9月6日(1858年10月12日)。

ゴッホやモネなどの画家に影響を与え、世界的に著名な画家で、浮世絵師。

本名は、安藤鉄蔵。江戸の定火消しの安藤家に生まれ家督を継ぎ、その後に浮世絵師となった。かつては安藤広重とも呼ばれたが、安藤は本姓、広重は号であり、両者を組み合わせて呼ぶのは不適切で、広重自身もそう名乗ったことはない。

天保3年(1832年)36歳の夏に、徳川幕府が朝廷へ駿馬を献上する年中行事である「八朔御馬献上」の行列に参加し、翌年、このときの写生と印象をもとに「東海道五十三次」を描き、一躍世に認められることになる。

当時の版元は、保永堂というところで、そのためこのシリーズは保永堂版と称されている。

他に、「木曾街道六十九次」「近江八景」「名所江戸百景」など、諸国名所絵、江戸名所絵など多くの名作を残す。

### ◆東海道五十三次◆

東海道は五街道の1つであり、江戸時代に徳川家康の指示で作られ、当時の首都であった江戸と京都を結んでいた。

最も重要でよく使われる街道として、本州の東海岸近くを通っていたことから「東海道」の名がついた。この道に沿って、53の宿場が置かれ、旅行者のための厩舎、食事処、宿泊所が営まれていた。

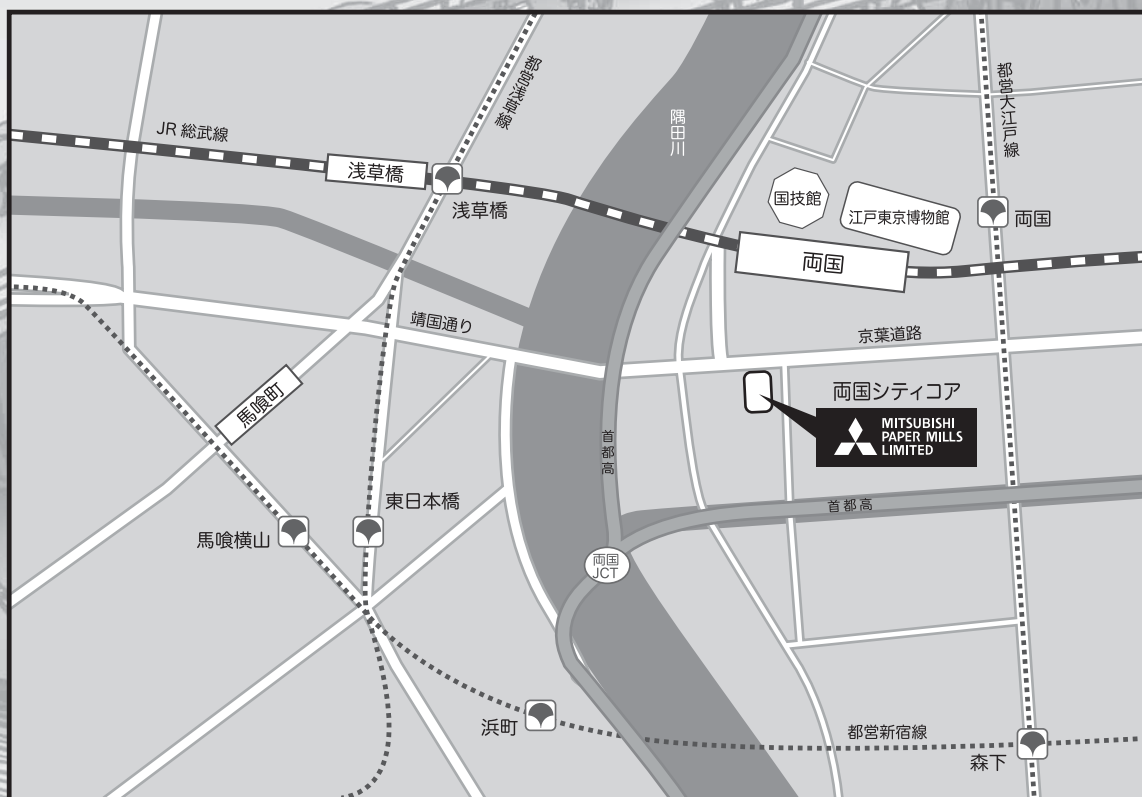
『東海道五十三次』保永堂版は、広重の作品のうち最もよく知られたものであり、もっともよく売れた浮世絵木版画でもある。

葛飾北斎の『富嶽三十六景』シリーズとともに、名勝を写して、浮世絵に名所絵(風景画)のジャンルを確立した。これらの名所絵には西洋の構成表現が取り入れられ、日本風に消化されて、新しい可能性を生み出している。広重の東海道五十三次のシリーズは、日本だけでなく、のちの西洋美術にも影響を与えた。

この作品は遠近法が用いられ、風や雨を感じさせる立体的な描写など、絵そのものの良さに加えて、当時の人々があこがれた外の世界を垣間見る手段としても、大変好評を博した。

## ご案内図

三菱製紙本社11F 両国シティコア(休館日:土・日・祝日)入館:無料



■JR総武線(各駅停車) 両国駅 西口[徒歩3分]

■都営地下鉄大江戸線 両国駅 A3出口[徒歩9分]

三菱製紙株式会社 <http://www.mpm.co.jp/>

【お問い合わせ先】

〒130-0026東京都墨田区両国2丁目10番14号両国シティコア

広報・IR室 TEL 03-5600-1485



ありがとう10周年。そしてこれからも。